



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42 カトリック鹿兒島教区 電話099(226)5100 振込口座02030-2-8359 編集発行 教区広報部

道標



ご挨拶

今年も「それでも…」と進みたい

鹿兒島司教 パウロ 郡山 健次郎

教区の皆さん、新年明けましておめでとうございませぬ。

辛いことの多い中であつて、必ずしもみんなが気持ちよくおめでとうを言うことはできないかもしれませぬが、それでも、新しい希望をもって心から新年のご挨拶を申し上げたいと思ひます。

教区長に就任して一年が過ぎました。「大変な仕事に就かれた」との周りの皆さんの当初のご心配にもか

かわらず、何が大変なことなのか、未だに良く分からないでいます。すでにレールが敷かれてあつて、その上を歩いてきただけだからだと思ひます。そろそろ自分らしい歩き方をしたいと思ひますが…。

就任の時にも申し上げましたが、『それでも』と言ひながら、みんなが元氣になればいい」という思ひは今も変わりありません。不平不満のない社会はありませんが、たとえ、日常生活

活の人間関係がややこしいものであつても、教会の中に不満に思ふことがあつても、それを口にしたり、冷たい態度で示すのは、心が元氣でない証拠です。信者でないと思ひますが、「心の元氣」を一人ひとりが出していけば、家庭はもちろん社会にも、そして、辛い立場に置かれてゐる子供たちやお年よりにも、心の元氣が伝播していくはずで、あちこちで「それでも、喜び、希望、感謝で頑張つてい

ます」という話を聞くのは嬉しいことです。この motto がみんなの motto になれば心の元氣は倍増するに違ひありません。

新しい年も、どんなに辛いことがあろうとも、鹿兒島教区の皆さんが、何とか希望の証人となつて、レオ七右衛門をはじめ、先人たちがまつとうしたイエス様への信仰をより一層地に足の着いた強固なものにできるような祈ります。そうして

「それぞれの顔をしたイエス様の物語」が、家庭でも人々の中でも語られることを願つてやみません。十一月二十三日の列福式を待ちつつ…。

人

ヤコブ会を結成 向井伸志さん

「結成のきっかけは教会で自由に活動できるグループが欲しかったから」と語つてくれたのは母間小教区の向井伸志(F・ザビエル)さん。

教会や世代の枠を超えてやりたいと思ふ人が自由に集ひ活動したいと思ひで「ヤコブ会」を結成した。

名前の由来は主任司祭福崎英雄神父の靈名から。「今のところ青年が中心になつてますが、青年に限らず誰でも参加して!」というオープンな会には五人ほどが集ひ、徒歩巡礼の準備や子



どものクリスマス会への協力など精力的に活動している。

「メンバーは、何かしたいと思つていたらしく、みんな喜んでいます。中高生キャンプ等も企画してみたい。教会を楽しくしたいんです!」と熱く語る向井さんは昨年のワールドユースデーに参加したメンバーの一人。現在三十五歳、奥さんと二人の子どもに恵まれ、グループホームで働いている。

一月一日は世界平和の日

教皇パウロ六世は一九六八年一月一日、ベトナム戦争が激化するなか、平和のために特別な祈りをささげるよう呼びかけました。それ以来、全世界のカトリック教会は毎年一月一日を「世界平和の日」として、戦争や分裂、憎しみや飢餓のない平和な世界が来るように祈つています。

平和はキリスト教そのものに深く根ざしていません。キリスト者にとつて平和を唱えることは、キリストを告げ知らせることにほかなりません。新年にあつて「信仰の原点に立ち戻り、すべての善意ある人々と手をたずさえて、平和な世界の実現に向かつて、カトリック信者としての責任を果たしていく」(日本司教団『平和への決意』)ことができるよう決意を新たにしたいと思ひます。

教区人事

▼中野裕明神父(教区本部) 一月一日付で教師の会「小・中・高教師の部」担当司祭に任命。大学の部は顧問司祭として引き続き竹山昭神父が担当する。

が、いくつかの教会で見られる青少年の活発な動きを大事に育てる、という点では合意した。

「日本一八八殉教者列福式」への教区としての取り組みについては、これまで長年にわたり、殉教者レオ七右衛門の顕彰を行つてきた「川内殉教祭」を名実ともに鹿兒島教区主催にすることと、合わせて、鹿兒島教区の他の祭り、「ザビエル祭」(八月)、「シドゥッチ祭」(十一月)等を統括する会合の創設が提案され、その名称を「信仰顕彰委員会」(仮称)とするとの意見も出た。

を継続させるためには教会は常に青少年に関心を示し続ける必要がある。その具休案として毎年、定期的に教区中の青年が集まることを提案したい。青年たちは特に体で信仰を感じとつていく必要があるから。

この提案に対して、司祭団からは際立つた反対意見はなかつたが、教会学校も含めた、青少年司牧の困難さに異口同音に悪戦苦闘している現場からの声が上がつた。話し合いの結果、具体的な結論が出なかつた。

定例司祭集会で青少年司牧と「一八八殉教者列福式」への取組を検討

十一月二十八日、教区本部で定例司祭集会が開かれ、青少年司牧と来年、長崎で予定されている「日本一八八殉教者列福式」への取り組み方が重点的に検討された。

青少年司牧の件について郡山司教は次のように発題した。

青少年の教会離れが進む中で、活発な動きがあることも確か。その活動の核になつている青年は「世界ユースデー」に参加した人たち。しかし、彼らの熱意

2007年 喜び 希望 感謝 平成19年

鹿兒島教区司祭団

司教 郡山健次郎
司教 糸永真一
司教総代理 小川靖忠

鹿兒島地区

F・マリノ(始良)、寝占敦之(指宿)、泉 浩二(加世田)、小川靖忠(鴨池)、美島春雄、松森孝郎、G・ティエン、P・アン(ザビエル)、J・ムイベルガ、有馬信茂、W・フリチエル、頭島 光(谷山)、G・サンタマリア(玉里)、竹山 昭(紫原)、牧山田一(吉野)、O・ベルナルディーノ(種子島)、国原武志(国分)、永山幸弘(マリア山荘)、木村敏彦(純心聖母会鹿兒島修道院)、中野裕明(教区本部)、田辺 徹、成相明人(引退)、浜崎眞実(出向)

大隅地区

M・ヴィゴロ(鹿屋)、東 研(大根占)、松田清四朗(志布志)、田原 章(垂水)

北薩地区

大松正弘(出水)、山口重義(阿久根)、M・アッシュャー(入来)、J・レヒナ(大口)、J・ハンマ(川内)

大島地区

大野和夫(地区長館)、内野洋平(大笠利)、末吉卓也(瀬留)、橋口啓悟(大態)、小隈憲士(名瀬聖心)、H・ソーザ(小宿)、柳本繁春(古仁屋)、瀧 憲志、浜田盛茂(古田町)、岡 俊郎(カトリック長浜研修所)

徳之島地区

福崎英雄、H・ハヌス(母間)、T・メニツヒ(和泊)

司祭評議会

郡山健次郎(会長)、小川靖忠(副会長)、中野裕明(事務局長)、小隈憲士、寝占敦之、泉 浩二、頭島 光、大松正弘、内野洋平、J・サンタマリア

神のみもとで安らかに

M・ヴィデンマン神父帰天

レデンプトール会鹿児島
准管区会員インラード・
ヴィデンマン神父が十二月
七日(木)入院先の田上病
院(長崎市)で帰天した。
七十五歳だった。

ヴィデンマン神父は
一九三一年ドイツはバイエ
ル州生まれ。一九五二年

初誓願宣立、一九五七年に
司祭に叙階され、翌年来日、
その後そのほとんどの期間
を鹿児島教区(徳之島、川
内、谷山、大口など)での
宣教師牧のために尽力され
た。



そのヴィデンマン神父
の葬儀告別式は十二月九日
(土)午後一時か
ら愛宕カトリック
教会でしめやかに
執り行われ、教区
からも郡山司教を
はじめ多くの信者
たちが参列し、神
父の永遠の安息を
祈った。

師走に響く声 街で頑張る信徒さん



師走の街の
雑踏の中で、
障害者自立支
援法のために、

かえって苦しい立場に追
い込まれている人たちが
助けようと、署名運動を
している人の姿があった。
川涯利雄さんと郡
山勇三郎さん(始
良)の二人。冷
たい風と人々の気
ぜわしき漂う街中
にほんのり温かい
スポットできたよ
うに見えた。

ザビエル像献納 小宿小教区

十二月三日(日)の聖
フランシスコ・ザビエル
の記念日に、小宿小教区
(ホルヘ神父)では鶴野神
父(若松教会)から寄贈
されたザビエル像の献納
式を盛大に実施した。
ザビエルがはるか海を



まで奄美のちじん(太
鼓)を打ち鳴らして行列
し、近隣の人にもザビエ
ルの渡来を告げた。この
色鮮やかなザビエル像は
教会の祭壇中央に飾られ
た。また式典後は祝賀会
を開いて皆で喜びを分か
ち合った。

道を求めて人々集まる

マリア山荘主催の黙想会

十一月三十日(木)、平
日というのに三十人を超
える人たちがマリア山荘
に集まっていた。これは
マリア山荘主催で昨秋
から始められた黙想会(全
三回)の最終日でのこと。
第一回「キリスト者の
喜び」(九月二十三日、
二十四日)、第二回「聖霊



研修室は満員状態

この黙想は、自然の中
でゆっくりと考えられる
一泊黙想と忙しい人のた

めの日帰り黙想の二形式
が用意されていて、参加
者が都合に合わせて無理な
く足を運べるのがよいら
しい。
マリアと心を合わせて
自然の中で祈り、信仰養
成の場・宣教基地となる
ようにとマリア山荘が建
設されて十四年(一九九三
年四月落成)、今、まさに
その使命を達成しようと
加速し始めたかのように
ある。

司教執務 室便り

ザビエル様がさつま人形に?

「鹿児島島の新特産品コ
ンクール」を知ったのは
つい先月半ば。「大島紬
ストール」で県知事賞を
受賞した方から「会って
欲しい人がいる」と紹介
されたのが「さつま郷土
人形」制作者。やはり、
同コンクールで、鹿児
島県観光連盟会長賞を受
賞されたという。「ザビ
エルグッズ」の話を知り
て、「是非制作したい」
とのこと。話は早いほう
がいい。レオ七右衛門の
こと、シドッチ神父さん
のことなど立て続けにお
願いました。ご当人も大変

興味を持たれて、鋭意
取り組んでみたいとの前
向きなお言葉。手始めに
ザビエル様にマリア様、
それに紋章もグッズに変
わる。さつま人形の流れ
を汲むザビエル様。一体
どんな風貌で登場するの
だろうか。いずれも試作
品が一月末には出来上が
るといふ。「教会のため
なので、求めやすい価格
に」と言われたのも嬉し
い。今年のクリスマスマ
スには、さつま人形風馬小
屋も登場するかもしれな
い。

次は携帯ストラップに
キーホルダー。その他、
さまざまなグッズに「ザ
ビエル」の文字と御こと
ばをのせて、市内はもち
ろん全国各地へ。想像す
るだけでもワクワクして
くる。そうなのだ。東洋
の使徒聖師ザビエルが、
きつとワクワクしながら
第一歩を踏んだ。さつま
鹿児島の地に立つ教会
のキーワード(鍵となる
言葉)は「ワクワク」で
ないといけないのだ。そ
もそも、福音は文字通り
喜びの便り、ワクワクす
る喜びのはずだ。
一人一品持ち寄りの
パーティーよろしく「一
品アイデアコンクール」
もいいかもしれない。も
う一つの合言葉。「教会で
はあなたも主役。」



小・中・高校教師の皆さんへ

新年、あけましておめでとうございます。わたしは今年から、鹿児島
教区教師の会「小・中・高校の部」担当司祭に任命された中野神父です。こ
のような会が存在していることを知っている先生方は少ないのではないで
しょうか。現在・引退の先生方を含めて6人程度で毎年集まっています。
皆さんミッションスクールにお勤めです。公立の学校に勤めている信者の
教師方はもちろんたくさんいます。この教区報を読んでいるそんな先生方
にメッセージを送ります。わたしは教育現場で働いている先生方の応援団
です。家庭の崩壊により、子供のしつけがほとんどなされていないと思わ
れるほどの現状の中で、子供たちに知的、精神的指導を施すのは並大抵の
ことではないと思います。そうでなくてもマスコミなどの外圧をもちに受
ける境遇(いわゆる弁明できない立場)に置かれているのも事実です。人
に言えない悩みなど、何でも相談に乗りますので、以下のアドレスにアク
セスしてください。 mikokoro@po5.synapse.ne.jp

「教師の会」小・中・高校教師の部 担当司祭 中野裕明(教区本部)

新風

新しい道

新年明けましておめでとうございます。主の道を準備せよ」との洗礼者ヨハ
ネの言葉に従って、主イエスの誕生を準備
してきたわたしたちは今、主イエスと
ともに新しい道を歩んでいます。ところ
でこの「新しい道」とは具体的には何を
指しているのでしょうか?使徒言行録で
は、誕生したばかりのキリスト教が「道」
という名で呼ばれている事実があります。
たとえばパウロがキリスト教徒を迫害し
ていた頃の表現として、「この道」に従
う者を見つけ出したら男女を問わず縛り
上げ、エルサレムに連行するためであっ
た(使徒言行録9章2節)。また、ユダ
ヤ人で聖書に詳しいアポロという人につ
いて次のように紹介しています。「彼は主
の道」を受け入れており、イエスのこ
とについて熱心に語り、正確に教えてい
たが、ヨハネの洗礼しか知らなかった。
このアポロが会堂で大胆に教え始めた。
これを聞いたプリスキラとアクィラは彼を
招いて、もって正確に神の「道」を説明
した(同18章25節)。さらにキリス
ト教に回宗したパウロをユダヤ教の大祭
司や長老たちがローマ総督に訴えるわけ
ですが、その理由は次のようなものです。
「この男は疫病のような人間で、世界中の

ユダヤ人の間に騒動を引き起こしている
者、『ナザレ人の分派』の首謀者でありま
す。」と。これに対してパウロは、「私は、
彼らが『分派』と呼んでいる『この道』
に従って、先祖の神を礼拝し、また、律
法に則したことで預言者の書に書いてあ
ることをことごとく信じています(同24
章5節と14節)。すなわち「この道」とは、
キリストを信じ、キリストのことをよく
理解し、洗礼を受けてキリストの教えに
従って生き、さらにキリストをまだ知ら
ない人たちに教えようとしている信者の
共同体のことなのです。
ガリレア湖畔のホテルの売店で買い求
めた聖書地図の中で、ダマスコへ到る道
の説明に上記の使徒言行録9章2節が引
用されていました。ところが、ほとんど
の聖書が「この道」と訳している言葉を、
この地図では「新しい道」と訳していま
した。私がガリレアに滞在したのは、現
在日本の教会でその真偽について議論さ
れている「新求道共同体の道」の説明を
聞くためでした。キリスト教誕生から二
〇〇〇年。これまで教会が歩んできた道
はどこへ向かっているのでしょうか?発
展でしょうか、それとも衰退でしょうか?
教会がこれまで歩んできた「この道」を
「新しい道」として受け入れられない限り、教
会の発展は望めない気がします。

(N・H)

イエスと一緒にゴールした

徳之島地区で島内一周64キロの徒歩巡礼

徳之島地区教会(福崎英雄主任司祭)は、青年たちが中心となり島内の全巡回教会を三日間かけて徒歩で巡る島内一周巡礼を行った。延べ三十人以上の信徒が歩いた巡礼は、食事や宿泊の準備祈りなど地区一丸となって行われ、十一月二十六日(日)ゴール地点となった山教会には百五十人余りの信徒が集い、教会聖堂には入りきれず近くの公民館に場所を移して感謝のミサをささげた。

毎年恒例の島内巡礼を控えて集まった青年たち(ヤコブ会)の「島内に足を運



ちよつとひと休み

んだことのない教会があるなら訪ねてみたい」との希望がきっかけで、島内一周徒歩巡礼は実現に向けて動き出した。「イエスと向き合い、日々の神への感謝を思い出して欲しい」と企画された今回の巡礼は「感謝の道」と題され、さまざまな工夫がされた。

二十四日に岡前教会を出発して、三日間で島にある十の教会を巡る六四キロの道程。参加者は面縄、母間教会に宿泊し、食事は婦人会の協力で準備された。ま

た夜は聖書の分かち合いで巡礼を霊的に深めた。巡礼先の各教会には信徒が感謝の言葉や祈りを書いたカードが用意され、巡礼者はそれを取り、歩けない人の感謝の祈りと共にゴールの山教会まで歩みを進めた。その様子は鹿児島青年会の協力でホームページ上で映像とともに随時報告され、教区内外から祈りとメッセージが届けられた。

参加者は足の痛みにも耐えながらも不思議と疲労感は少なかったようで、「歩き

門田 明氏の 鹿児島とキリスト教⑨

ザビエル、鹿児島に上陸する
先号では、帆船で日本へ向かうザビエルが遭遇した様々の危険について語った。しかし幸いにも、この困難を通り抜け、ザビエルは無事鹿児島に上陸する。

「風は日本へ進む方向に吹いていました。こうして船長や乗務員の意に反して、日本への航路をたどらざるをえなくなりました。悪魔もその手下も、私たちの渡航を妨げることはできませんでした。こうして神は私たちがあこがれていたこの地にお導き下さり、一五四九年八月、聖母の



祝日(十五日)に到着したので。日本の他の港に寄ることができず、聖信のパウロの郷里である鹿児島にやってきました。ここで私たちは彼の親戚や親戚でない人たちすべてより、心からの歓迎を受けました。」(ザビエル書簡)風まかせ、潮まかせの帆船時代の航海である。ザビエル日本渡来は、まさに神の御心によるものであったとしか言えないように思う。

鹿児島でのザビエルについては、小平卓保『鹿児島に来たザビエル』(春苑堂出版・一九九八)、山田尚二『キリスト教伝来と鹿児島』を参照する。また、随時、河野純徳『聖フランシスコ・陸頭彰会会長』

ザビエル全生涯の記述を紹介してゆきたい。「ザビエルが渡航して来たころの鹿児島は、現在の市街地東部、滑川以北、南州公園から東の多賀山公園を結ぶ丘陵にかこまれた狭い地域で、稲荷川河口の戸柱港を起点に、一キロの半円の中に入る城下町だった。」(聖フランシスコ・ザビエル全生涯)
ザビエルは同行して鹿児島に来たのは、コスメ・デ・トレス神父、フェルナンデス修道士、中国人の従僕マヌエル、インドのマラバル人従僕アマトル、一方ヤジロウはザビエルの通訳も務めたジョアンとアントニオを同行させていた。こうして一行は鹿児島、つまり日本に、上陸したのである。(玉里教会信徒・ザビエル上陸顕彰会会長)

大口教会で堅信式

十二月三日(日)大口教会で堅信式があった。この日、郡山司教から堅信の恵みを授かったのは中高生を中心に十二人の信徒。

十二人は郡山司教から、想像を働かせながら聖書を読むことの大切さと信者になることは希望を持てる人になることというメッセージをもらった。ミサの終わりに、司教から堅信記念として鳩をか



たどった木製のペリダントが受堅者一人ひとりの首にかけられた。これは主任司祭J・レヒナ神父が受堅者に約束していたというもので、神父の手作り。神父が「レヒナ工房」と名付けた作業場で心を込めて仕上げたものである。ミサ後は司教を囲んで信徒会館で楽しいお茶のひとときが持たれた。

テゼの集い

十二月二日(土)鴨池教会でテゼの祈りの集いが行われた。十三人の青年が集まり静かな祈りの時を過ごした。徳之島からの参加あり、祈りの後交流会も開かれた。

待降節コンサート

十二月六日(水)カテドラルで鹿児島ハイドン協会合唱団・オーケストラのアドベントコンサートが開かれた。

川内純心高校

十二月八日夜、鹿児島中央駅東口広場であったナポリ通りライトアップ点灯セレモニー「フアンタステイックコンサート」に創部二十二年を迎えた川内純心高校ハンドベル部が招かれ、ホワイトクリスマスやクリスマスキャロルメドレーなど演奏し、師走の気ぜわしい街に心温まるベルの音色を響かせた。

大口クリスマス集い

十二月十日(日)午後、大口文化会館ホールで大口聖公会、大口キリストホー

1月 今月の暦

- 1日(月) 神の母聖マリア
- 4日(木) デジャック神父命日(一九八九年)
- 5日(金) 七田八十吉神父命日(一九八〇年)
- 5日(金) 教区本部仕事始め
- 7日(日) 主の公現
- 7日(日) 古田町教会堅信式
- 8日(月) 主の洗礼
- 8日(月) 教区司祭会・教区本部・16時
- 14日(日) 年間第二主日
- 14日(日) 永島泰蔵神父命日(二〇〇二年)
- 18日(木) キリスト教一致祈禱週間・25日まで
- 「すべての人を一つにしてください」という最後の晩さんでのイエスの祈りに耳を傾けるわたしたちはまた、折にふれて目に見える一致を示すように求められています。それは、ともに祈り、支え合うことによつて、神がすべての人の救いのためにイエスを遣わしたことを「世が信じる」ためです(ヨハネ17・21~23参照)。
- キリスト教諸教会の間で毎年1月18日から25日に定められている一致祈禱週間は、このことを強く意識する機会となるでしょう。この一致祈禱週間のために、教皇庁キリスト教一致推進評議会と世界教会協議会は一九六八年以来、毎年テーマを決め、「礼拝式文」と「八日間のための聖書の祈り」を作成しています。日本ではカトリック中央協議会と日本キリスト教協議会が共同で翻訳し、小冊子を発行しています。
- 19日(金) ハイシク神父命日(一九八九年)
- 21日(日) 年間第三主日
- 21日(日) キリスト教一致祈禱集会・14時・カテドラル
- 23日(火) 司祭大会・26日まで・教区本部
- 25日(木) 聖パウロの回心
- 25日(木) 郡山健次郎司教霊名
- 26日(金) 定例司祭集会
- 26日(金) フェリエ神父命日(一九一九年)
- 28日(日) 年間第四主日
- カトリック児童福祉の日(献金)

アルファコースのご案内

夕食を共にしてビデオを見ながら神の愛を学びます。★1月18日(木)開始、毎週木曜日19時~21時(全15回)★申込み締切 1月14日(日)どなたでも参加できます。お待ちしております。ザビエル教会 tel二二二一三〇〇八

日本カトリック部落問題委員会主催の「ハンセン病国賠訴訟からみる国家と差別シンポジウム」が十一月二十三日(木)小倉教会で開催され、鹿児島から小川靖忠神父と参加し、多くのことを学びました。

ハンセン病という名は知っていても、私たちの意識のない差別と偏見、無関心な態度がハンセン病と取り巻く人々を極端に小さくし、その人間性、尊厳さえも葬り去っていたことにガクゼンとさせられました。

ハンセン病問題

シンポジウムに参加して

教区助祭 桃菌淳一郎

シンポジストとして、マイケル・シーゲル神父(南山大学助教授)が、オーストラリアにおけるアボリジニに対する政策の誤りについて話されました。それは適者生存理論(進化の進んだ人種は存続し、遅れている人種は絶滅すると考える)により、生殖管理政策で白人を優先させようとした、人間にリンクをつけることを厳しく指摘された。しかもそれが「善意ある人」と言われる人たちによって実施されたこと、その多くがキリスト者だったことに何とも言えぬ思いでした。

次に内田博文教授(九州大学)から体面のための僻地への強制隔離という国の誤ったハンセン病政策の変遷が話された。その中で特に「学ばなければ加害者である。またその被害の大きさに気づかない加害者である」ことを強調された。最後に国立星塚敬愛園(鹿屋市)に住む、上野正子さん(七十九歳)が六十六年間のすさまじい体験を語られた。

石垣島に生まれ、本島の県立高等女学校に入学して間もない十三歳のとき、皮膚病の診療と言われて鹿屋に送られた。以来、肉親とも隔離を強制され、名前まで変えられ、絶望の日々に苦しみもだえた少女時代を話された。また断種させられた伴侶との出会い、結婚など、どれ一つをとっても世の一般的希望を持ってない生活。ひたすらキリストを信じ(プロテスタント)、神にすべてをゆだねての日々。やがて国賠訴訟へと立ち上がる。しかし園内外の中傷の中で闘いは続き、二〇〇一年五月十一日、熊本地裁における

「らい予防法の違憲性」という判決を迎えられた。「無らい運動」という、誰もが当たり前のことと考えたハンセン病政策によって生じた偏見が、多くの人たちにとんでもない結果を与えてしまったことに言葉もありません。自分がいかに中途半端であったかを思い知らされました。「悔い改めよ」というキリストの声が針のように胸にささりました。

シリーズ「教区財政を考える」③ 教会のお金は誰のもの？

むかし、黙想会の講話の中で次のような話を聞いたことがありますが。それは山村の教会でのことです。ある日、暖房用の焚き木が盗まれました。主任司祭は早速主日のミサの説教の中で焚き木が盗まれたことを告げ、犯人は速やかに盗んだ焚き木を元の場所に返すように激しい口調で怒鳴りました。ミサの後、一人の信者が司祭に言いました。「神父さん、そんなに怒りなさんな。教会のものは私たちのもの、私たちのものは教会のものだから焚き木ぐらい自分たちがまた持つてくるよ」と。

司祭から教会の管理を任されている司祭はその任務に対する忠実さのゆえに、このような過ちを犯す危険があることをそのとき学びました。お金について心配しすぎる主任司祭もありうるし、教会の財政についてほとんど無関心の信者が多いことも確かです。教会維持費を納入している人が在籍信徒数の半数以上であれば上出来かも知れません。受洗後間もない人と何十年も教会に通っている人とでは教会の財政に対する意識の差があるのはある意味で

当然です。そこで今回は、お金と教会の関係について記したいと思います。

○平成七年の「宗教法人法」の改正
最初に、少し堅苦しい話になりますが、十一年前に「宗教法人法」の抜本的改正がなされました。これは昭和二十六年に制定された宗教法人法の実に四十四年ぶりの改正でした。この改正のきっかけとなったのはオウム真理教事件でした。宗教団体を隠れ蓑にして、多額の資金を稼いでいた事実が発覚しました。このような事件の再発を防ぐために政府は抜本的改正を行ったのです。その骨子は宗教法人の管轄官庁を明確にし、そこへの財産目録、会計収支計算書、貸借対照表の毎年の提出を各宗教法人に義務付けるというものでした。その結果、宗教法人の中の財政に関する民主化と透明性が確保される結果となりました。この事件は日本においては宗教がお金儲けの手段として使われている実態が表出する機会となり、宗教の本来のあり方を問うために、宗教とお金の正しい関係を構築するために事後処理の結果とは言え、有益だったのではないかと思います。

文芸

(思川俳句会作品)

頂に雲遊ばせて眠る山
(評) 結句の「眠る山」の表白は作者の発見
純心学園 山頭信子
夕時雨たぬきがよぎる帰り道
祭だんに手々を合せて七五三
(評) 「帰り道」も「手々を合せて」も童謡が聞こえてくる佳作
阿久根 中津濱フサエ
行く春をめめでたく祝ふミサの鐘
殉教祭祈りの中にミサ進む
純心学園 川上 和
電飾に枯木も生きるクリスマス
鹿見島 徳永ノブ子
木漏れ日に映える谷間の薄紅葉
カトリック教会にとつては、この改正により、管轄官庁(鹿児島教区の場合は

んそこには憲法が保障している、信教の自由と、政教分離の原則に抵触しないという条件があります。○教会での冠婚葬祭の費用について
信者さんの多くは教会での葬式や結婚式の費用をどのくらい支払えばいいのかわかりません。もちろんそれについては信徒も主任司祭もわかりません。基本的にはそれらの費用は法律的には献金、あるいは奉納金とみなされるので、当事者ご本人が決めることです。葬式代、結婚式代といえは料金とみなされ、課税の対象となります。しかしそれでは、皆さん困るので、各教会ごとに主任司祭を委員長とする財務委員会で提示できる目安となる額を決めておくといいたいです。ただ、問題はいただいた献金の行き先です。計算書のどの勘定科目に入れるのか、今のところ各小教区ごとで処理方法は違うと思えます。

○司祭とお金
教会法によりますと、司祭は教会から正当な報酬を受ける権利と、自己に奉仕する人に正当な報酬を給付できる程度の報酬も受ける権利を認めています。(教会法第二八一条 参照)すなわち、司祭職を果たすために必要な家政婦さんへの給与も含めた報酬を受ける権利のことです。教会維持費という、教会の建物の維持管理のことだけを考えると、司祭の全生活費を含めて考えていただきたいと思えます。(教区会計 中野裕明)

ひこばえや細き棚田を飾りり
鹿見島 本城 愛
ロザリオを練りて耀ふ初日光
鹿見島 龍門司真人
(思川短歌会作品)
果てしなき薄の穂波つづきいてわれ
もなびかん直き心で
鹿見島 眞清水 藍
(評) 芒の花言葉の勢力、活力に因む「直き心で」の結句が佳作とした。
小太郎と陽子ちゃんを愛してるハー
プの様な音色に包まれ
鹿見島 春山マリ子
ギリギリのくらしの中の愛しみに
はいつくばったりくるしんだりしぬ
阿久根 窪田ヒサエ
七十路を色濃く生きて三代の子らに
会えるを喜びとせん
明光学園 森 博伸
いにしえの時の名残りに佇みぬ嗟峨
の慈しむ光

野の里の祇王寺の庭
奄美 林 常広
飼犬のおおをゆずりて十月月志布志
の雪を見るなおをしのびおり
古仁屋 豊島忠司
「お前にも結婚話を決めた」と言ふ夢
を見し朝陶然と覚む
出水 遠竹睦郎
霧島の峰より出でしご来光仰ぎて皆
は喚声上ぐる
阿久根 中津濱フサエ
結ばれて早や六十年歩みきて平和な
めぐみ永久に祈らん
鹿見島 前田儀子
弟の眠むる霊園に通ずる道紫式部の
実ゆたかに揺れる
純心学園 川上 和
秋晴れの白亜の聖母に別れつげブラ
ジル大地へ友は旅立つ
鹿見島 田平新太郎
美しきマリアの建らし学び念を画く初日
の慈しむ光



カトリック新聞

「日本経済新聞」に「カトリック新聞」が掲載されました。

カトリック新聞は、日本の教会は、今こそ「カトリック」の声を聞かなくてはなりません。カトリック新聞は、日本の教会の発展に貢献します。カトリック新聞は、日本の教会の発展に貢献します。カトリック新聞は、日本の教会の発展に貢献します。

〒105-0005 東京都港区新橋2-6-10 カトリック新聞社 電話 03-5632-7030 Fax 03-5632-7030